

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会
開 催 日 時	令和2年5月14日(木) 開会時刻 午後6時30分 閉会時刻 午後8時30分
開 催 場 所	Web会議
出 席 者	柳沢 厚 C-まち計画室 代表者 保井 美樹 法政大学教授 阿部 伸太 東京農業大学准教授 大沢 昌玄 日本大学教授 長島 剛 多摩大学教授 墨 昭宏 公募市民委員 舟木 公一郎 公募市民委員 恩田 秀樹 武蔵野市
欠 席 者	— —
会 議 の 議 題	(1)経過報告 (2)「市民が描くまちの未来像」と「まちの将来像」について (3)市民や民間が取り組むまちづくりとの連携と環境づくりについて (4)その他
事 務 局	まちづくり推進課

発言者	発言の要旨
A委員	<p>第4回武蔵野市都市計画マスタープラン改定委員会</p> <p>(1)経過報告 ～事務局より、資料1を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p> <p>特になし。</p> <p>(2)「市民が描くまちの未来像」と「まちの将来像」について ～事務局より、資料2、3を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p> <p>本計画とコロナウイルスの関係はどのように考えるのか。 コミュニティのあり方などを見直さなければいけない時期になっており、こ</p>

発言者	発言の要旨
事務局	<p>れまでに聴き取ってきた市民意向が一昔前の話を感じる。市民ワークショップを今実施したとすると違ったものになるだろう。</p> <p>都市計画は長い時間軸で考える必要があるが、コロナウイルスの影響はやや短期的で物理的な破壊も伴わないことから、都市マスで大きく扱うことは考えていない。「With コロナ」と言われるような、今後1、2年で考え方や生活様式は大きく変化するかもしれないが、都市マスで扱う都市基盤などは10、20年先を見据える必要がある。生活様式の変化など考慮すべきことはあると思うが、今のところ改めて市民意見を聴き取ることは予定していない。</p>
委員長	<p>人と人との出会いが都市の本質であるため、コロナウイルスと都市マスの関係を考えるのは非常に難しい。</p>
A委員	<p>車中心の社会になったことで、歩行者優先の社会を望む市民意向があることと同様に、人と触れ合わないけど、触れ合いたいという気持ちが今後生じるのではないか。それを20年後の都市基盤でどのように活かすか想像するのは難しいが、新たな都市マスでは何かアクションを起こす必要があるのではないか。これまでに聴き取った市民意向だけで未来像を描くと、「少し前の話だよ」という印象を持たれると思う。</p>
委員長	<p>現段階ではコロナウイルスとの関係について結論は出せないと思うので、対応方法については事務局で引き続き考えてほしい。</p>
B委員	<p>コロナウイルスの有無に関わらず未来は想像できない。市民がその都度起こる社会の事象に対して、意見を都市マスに反映できるべきだと思う。具体的に絵を描くことも大事だが、市民が常に関わりつつ、社会状況の変化に柔軟に対応できるような仕組みを考える必要があるのではないか。</p>
C委員	<p>市民ワークショップでは、テレワークやシェアオフィスなどを考慮した議論がされていたので、コロナウイルスに関する生活様式の変化に繋がる内容も踏まえられていると思う。</p>
事務局	<p>将来像は3つの視点で設定されているが、どのような観点で設定されているのか確認したい。</p>
事務局	<p>将来像を3つ設定した理由は、市民意向を聴き取る中で人の活動に関する意見を多く頂いたため、場所で切り分けるより、賑わいがある駅周辺での活動シーンと住宅街で市民が生活しているシーンの大きく2つに整理した。3つ目は、それら2つの活動を支えるための行政の役割や都市基盤、人と人との繋がりなど、人々の活動の前提となる部分を将来像の1つとして設定した。</p>
D委員	<p>With コロナの中で、身近なまちが大切にされていくと考えられるが、未来像で描かれている内容を見ると方向性を大きく変える必要はなく、むしろ大事にしていくべきと感じる。ただ、「With コロナのまちづくり」と都市マスに記載するかどうかは考えなくてはいけない。</p>

発言者	発言の要旨
事務局	<p>よくある行政計画と比べると、新たな都市マスは市民目線で柔らかく作られてきていると思うが、策定のプロセスや内容について前回の都市マスと大きく変わったことは何か。</p> <p>今回は、行政計画であるため街の将来像については行政分野を網羅するように設定した。今回は、行政分野を網羅するのではなく、市民が実際に考えていることや、我々が推進したい部分を強調して書いている。行政計画としてみれば、将来像に抜けがあるという意見もあるかもしれないが、網羅的にすると選択と集中ではなくなる。都市マスとしての書き込みとなれば、市民の方が興味のないようなことも書かないといけませんが、できる限り「柔らかい都市マス」にしようと考えている。</p>
D委員	<p>これまでの議論を振り返ると「まちづくり」について、一般的な都市マスでは範囲外と言えることに関しても取り組む姿勢が見えてきている。都市マスの狭い範囲だけではなく、広く対象とできるようにすべきと考えるが可能なのか。</p>
事務局	<p>都市空間、都市整備に関わる内容に限られるが庁内の合意形成を図り、一般的な都市マスの範囲外のことについても書き込めたらと思っている。</p>
D委員	<p>渋谷区ではあえて「都市計画マスタープラン」ではなく、「まちづくりマスタープラン」と名前を変えて、法定の都市計画だけでなく区独自のまちづくりの根拠にもなっている。武蔵野市も法定の都市マスのみならず、市独自のまちづくりも含めた都市マスとなれば良いと思う。</p>
E委員	<p>長期計画は実施計画のような性質になっているが、都市マスではもう少し先を見据えたまちづくりを描くべきだと考える。</p> <p>コロナウイルスの影響については、新たな都市マスの2章「社会状況と地域特性」では、触れざるを得ないと考える。この社会状況をどう反映するかが課題である。</p>
F委員	<p>今までの都市マスは夜間人口をベースに考えられていたが、これからは昼間に市内で働くことも含めて考える時代になる。資料3の「まちの将来像」で、未来像に記載がある「自由に働き楽しむ暮らし」を都市としてどのように支援するか記すべきだと思う。</p> <p>未来像に「キャンパスタウン」があるため、「学ぶ」を入れても良いのではないかと。それを踏まえ、働き学ぶ環境をどのように担保するのか示せると良い。</p> <p>最後に、コロナウイルスの影響があっても物が供給されることが安心材料の一つであったことから、物流を支える視点を入れても良いのではないかと。</p>
G委員	<p>資料3について、まちの将来像1、2ではなく、個々にタイトルがあった方が分かりやすいと思う。将来像1、2を将来像3が支えているようなダイアグラムがあるとより明快に伝わるだろう。</p>

発言者	発言の要旨
委員長 事務局	<p>イラストはこれから作成されるとのことだが、例示されている絵が車中心の絵になっているのが残念。オープンスペースネットワークが吉祥寺から井の頭公園まで繋がっているようなイラストになっても良いと思う。</p> <p>タイトルをつけ、構造がわかりやすくなるのはとても必要だと思う。</p> <p>資料3の2ページ以降の下部に、緑字で記載しているものが、暫定で考えているタイトルである。</p> <p>イラストについては、今後将来像を的確に表現できるようなイメージを作っていきたいと考えている。</p>
委員長 事務局	<p>未来像が3つになっているが、将来像との整合を見据えてワークショップや座談会それぞれ市民が描いた未来像を再整理したのか。</p> <p>未来像とは別に将来像のイラストを作成する予定である。市民が描いた未来像は、基本的に行政が手を付けずに掲載することを考えている。</p>
A委員	<p>市民が描くまちの未来像を読み返すと、未来のことが描かれていて良いと思うが、ベッドタウンとして住み良い場所にしたいという印象を受けた。もう少し「働く」というイメージがあったほうが良いと思う。</p>
委員長 A委員	<p>将来像に「働く」要素を書いた方が良いということか。</p> <p>将来像に書いた方が良い。未来像は、コロナウイルスが流行する前に実施したワークショップで作上げたことを明確にしたほうが良いだろう。</p>
	<p>(3) 市民や民間が取り組むまちづくりとの連携と環境づくりについて ～事務局より、資料4を説明し、その後質疑応答、意見交換～</p>
B委員	<p>具体的に何がエリアマネジメントでプレイスメイキングなのか、それによって都市がどのように良くなるのかを明確にして頂きたい。</p>
D委員	<p>エリアマネジメントやプレイスメイキングを民間による地域経営で行うとすると、パブリックスペースだけの話ではなくなる。</p> <p>民間によるまちづくりを促進する場合、規制誘導など多岐にわたる分野で横断的な議論が必要となる。全庁を挙げて対応することが難しい場合、まずは都市分野の部署ができることから実施する必要がある。順番に次のステップを検討していくのが良いと思う。</p> <p>資料4の名古屋のまちづくりのステップに関して、これまでは補助金がバラバラに活用されていたが、市役所全体としてどのように地域と付き合っていくのか、地域のまちづくりプレイヤーとどのようにパートナーシップを発展させていくのか検討した。また、検討段階から地域の方とも議論を行ってステップを作成し、どの段階で規制緩和や支援が出来るのかを整理しながら作成したよ</p>

発言者	発言の要旨
	<p>うだ。</p> <p>今回の都市マスでどこまで扱えるのかであったり、パブリックスペースからしか始められないなどの制約はあるが、高い志を持ったまちづくりのプレイヤーが現れ、課題が顕在化された際には、全庁を挙げて対応できるようになればと期待している。</p>
B委員	<p>具体的にその支援の仕方や、お金の出し方にやり方があると思うが、どのような方策があるのだろうか。</p>
D委員	<p>公開空地や空き家の活用など、行政がどのように関わるのかは難しいところもあるが、そういうところにアイデアを出しつつ、どこまで対象を広げられるのかを考えていくのだと思う。</p>
C委員	<p>現状の地区まちづくり計画について、例として挙げられた事例は課題があるのかもしれないが良い試みであると思う。継続性や広がりはあまり期待できないということであれば、地区まちづくり計画から、地区計画へ引き上げられないのか。または、地区まちづくり計画の主たる活動内容である緑化に対し、市がメリットを与えることで、良好なまちづくりに繋げるような検討は出来ないのか。</p>
事務局	<p>地区まちづくり計画を地区計画へ位置付けるにあたり、課題が2つあると考える。1つ目は地区まちづくり計画を作るのに市民の方が疲れてしまい、計画を作ることがゴールのようになってしまった。ここで地区計画に位置付けるために、新たな対応を求めるは難しいと考える。2つ目は、地区まちづくり計画の中でも地区計画に位置付けるものと、そうでないものを行政で判断することはできないことがある。</p>
C委員	<p>市民の声を活かし、緑を大切にしていきたいという声を実現するために都市計画で対応する考え方ではできないか。活動主体の体力がないから難しいという考え方ではなく、市が引き上げていくという考え方はできないか。</p>
事務局	<p>制度としてはその通りである。基本的には、地区まちづくり計画を作りながら、上位の地区計画へ繋げていくという考えがある。制度上、アドバイザーの派遣など地区計画につなげていくような支援の仕組みもあるが、実際に地区まちづくり計画に関わられた方からは負担が大きかったと聞いており、更に負担をかけてしまうことは難しいと考えている。</p>
委員長	<p>B委員が実践されている事業領域は資料4の支援する取り組みイメージ中ではどこに位置づけられるのか。</p>
事務局	<p>事業そのものは都市マスに取り入れづらいことだが、リノベーションであれば場所や空間に関することになる。リノベーションは、民間建物の中のことになるため、一般的には都市基盤分野ではないのだが、10年後のまちについて考</p>

発言者	発言の要旨
B委員	<p>える中では、議論すべきことであるため資料に記載している。</p> <p>和歌山はリノベーションまちづくりがきっかけで、法人のまちづくり会社が6社設立され、20以上の事業等がおこり、まちの暮らしが大きく変化したと聞いている。民間まちづくりでは、支援や連携の仕方が難しい。誰が、何を、どう実行するのか、どのように公平性を担保していくのか試行し、成果を出しながら進めていくことが大事だと考える。</p>
事務局	<p>具体的な事業については、実現性を踏まえて記載する必要がある。まちづくりガイドラインの部分では、これまで関連がなかった民間プレイヤー同士を行政が繋げていくような支援や資金運営、収益活動など、通常は行政が関わらないことなども組み合わせて考えていくのだと思う。</p>
委員長	<p>横浜市では60、70年前に建てられ、老朽化した耐火建物帯の建物があったが、立地が良いことなどから市のデザイン系部局の支援により、クリエイターが事務所を構えるようになったという事例もある。</p> <p>このような取組であれば、武蔵野市でも実施できるのではないかな。</p>
D委員	<p>市民からの提案を窓口で受け止めて、公民連携のプロセスにつなげていく仕組みが必要だと思う。例えば大東市では、ほぼ全ての事業を公民連携で実施できるか検討し、直近で対応すべき事業は民間に発注し、それ以外の事業は民間側からフリーで提案できるような取組をしている。提案された事業の受け止め方も決められており、他の自治体でも事例は増えている。</p> <p>多くは都市計画部局でない部署が所管しているのだが、武蔵野市ではまちづくり推進課などが窓口となり民間からの提案を受け止め、行政計画に位置付けられていない事業であっても対応できるようになると良い。</p>
E委員	<p>現在、吉祥寺はコロナウイルスの影響で経済的な打撃を受けている。飲食店を中心とした生業が吉祥寺の魅力である。行政で出来ることと、民間でやらなければいけないことをまちづくりの中でどのように実施していくのか。2、3年先の大きな課題として待ち受けているのは事実であり、都市マスでその方向性が示せると良い。</p>
F委員	<p>交通事業者についてもどのように扱うのが今後のポイントになると考える。JRやバス事業者などと、どのように連携をとるのか明確にした方が良い。目的地の空間の在り方に関する議論が多いが、目的地までの移動も大きな課題だと思う。まちづくりと交通の連携も武蔵野市らしさとして、記した方が良さそう。</p> <p>資料4のまとめにある(3)民間事業者が提案するしくみについて、駐車場など余っている施設を地区内で集約化するなど、敷地単位では困っているものが、地区単位で検討するとうまく活用できることもあるため、民間事業者が提案する仕組みと併せて地区レベルでのまちづくりの仕組みについても、触れて</p>

発言者	発言の要旨
G委員	<p>おくと良いだろう。</p> <p>資料4のまとめの再掲について、道路公園や施設用地などの公共空間の活用について、もう少し踏み込んで良いのではないか。緑の基本計画でプレイスメイキングに関して、公園や周辺の活用という書き方になった。公園と歩道の境界を無くし、広場的な意味合いにするのも良いと思う。</p> <p>民間のまちづくりを公園の立場から言うと、Park-PFIのような制度も記載できたほうが良いのではないか。地区まちづくり計画を作成することは市民の負担が大きいのということもあったが、「楽しさ」へ繋がれたら良いのではないかと。快適性だけで終わるのではなく、衛生性や安全性、経済性を持っているため、そのような要素を発展させる事業展開は出来ないのか。</p> <p>例えば、練馬区では「ちゃい旅(小さい旅)」という、オープンガーデンや市民緑地、カフェ、公園などが一体となったプログラムがある。これにより経済性を生むという事例もある。</p>
A委員	<p>前回、企業誘致について業務系の事業者を増やしていく必要があると発言したが、武蔵野市にとってはベストなタイミングになっている。企業をどのように巻き込んでいくのかを強めに書いた方が良いと思う。</p> <p>資料4のまとめに記載のあるまちづくり団体について、行政が支援しきれないところを、地元の企業とプラットホームという形で行政が上手く結び合わせてあげるような仕組みがあると、まちづくりも進みやすくなるのではないかと。</p>
委員長	<p>今回の議論は、まとめるのではなく今後どう活かすかという議論が多かった。</p> <p>(4) その他 ~事務局より、資料5を説明し、その後質疑応答、意見交換~</p> <p>特になし。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>